



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

令和6年7月18日(木)
今年も米代川河川敷伐採木の製炭 編

昨年、一昨年に続き *今年も米代川河川敷の支障木を炭材に、製炭を行ないました。なるべく炭材発生場所と利用先の近く、オンサイトで行なうことがポイントの一つですので、昨年と同じ場所で実施しました。

この日は研究所から6人が参加したほか、能代河川国道事務所からも6人が見学・参加して下さい、こと調査課の3人の方々は汗だくになって動いて下さいました。

みなさんの日ごろの行いが良かったため、梅雨の合間の暑い一日となりました。熱中症嚴重警戒のもと、休憩用のテントの設置や炭化器の組み立て等の準備を9時半から始め、16時には撤収することができました。

組み立て式の簡易炭化器2台で作業を進めましたが、炭材が2mとこれまでになく長く、そのままでは炭化器に入らないため、半分程度に切断する作業が生じました。伐採から時間が経って乾燥していたため、細いものは簡単に折ることができましたが、直径5cmを越えると人力では難しくなりました。このままでは作業が終わらないと判断し、途中から簡易炭化器1台を追加しました。最終的に伐採支障木約10m³を製炭し、土のう袋29袋分の木炭ができました。

今回と去年の経験から、炭材となる支障木は①伐採後ある程度時間が経ち乾燥している②製炭器に入る長さ③直径約10cm以下であれば、炭化器に順次入れていけば高温が維持され、製炭が順調に進むことがわかりました。支障木伐採後に、製炭用に長さや太さを揃えて仕分けておくことが難しい場合は、製炭現場にまき割り機や電動のこ等を準備していく必要があります。

また、炎天下の作業でも、休憩時のおやつには良く冷えたチョコレートや一口ゼリーといった甘いものが好まれることもわかりました。みなさん、暑い一日、大変お疲れ様でした。

文：渡辺 千明



現場には長さ2m、幅1m、高さ1mでまとめられた伐採支障木が5束用意されていました。束の中にはハンノキ、ヤマザクラ、キリ、ホオノキがありました。



能代河川国道事務所調査課の館山さんと成田さんが完全装備で参加、炭材を次々と投入して下さいました(上)。研究所メンバーは、道具や体重を使って炭材を炭化器に入る長さにしていきます(下)。



炭材が形を残したまま白くなり、製炭器がいっぱいになったら製炭終了です(上)。水をかけ、かき混ぜながら冷めます。(下)。

*令和4年10月31日、令和5年10月2・3日の活動レポート参照